

「トオこし」実践者講座

25日、成美大で開講

福知山市西小谷ヶ丘の成美大学4号館で25日午後1時30分から、「地域コトおこし実践者講座」の開始を記念して「そのヒケツ、ヒトにあり」と題した講演会がある。講座は、まちづくりや起業など、地域で活動する人を年間を通して支援するもの。

府が主催、一般財団法人地域公共人材開発機構が企画運営し、成美大学が後援する。

今回は、まちづくりの先進事例を知る講演会。全国の農村女性ネットワークであるNPO法人「田舎のヒロインわくわくネットワーク」の代表、山崎洋子さん、福井県、

と、馬路村農業協同組合の代表理事組合長、東谷望史さん、高知県が講

まちづくりや起業など 地域で活動する人支援

を始め、おけら牧場・ラーパンの森の経営、運営をしながら、食の安全や文化に関わる活動に広く取り組んでいる。

東谷さんは、73年に故郷の高知県馬路村の農協に就職。農業で村の所得を上げようと、ユズの加工販売に取り組んでいる。国土交通省の観光力リスマ、内閣官房委嘱の地域活性化伝道師などを歴任。10年には「地域づくり総務大臣賞」を受賞している。

師を務める。山崎さんは、1971年に早稲田大学教育学部を卒業。結婚を機に農業へ。

同講座は通年受講者を募り、今後もグループワークを中心に、地域の課題解決やコトおこしにつなげる活動を考え、プロジェクトを実践していく。決まっているグループワークや交流会などは全9回で、いずれも土曜日の開催。実践プロジェクトとスキルアップ勉強会については、随時行っていく。

通年受講の申し込み、問い合わせなどは、25日までに同開発機構へ。詳細の確認と実施要項はホームページからダウンロードできる。講演後にも、参加者から質問を受け付ける。

ホームページは<http://www.colpu.org/koji/>